

障がい者が生み出すアートを 事業に活用しませんか？

私たち障がい者アート協会は、障がいがありながらも創作活動続ける人々が、社会に向けて「自分の作品を発信できる場所作り」と、企業によるそれら作品の活用から得られる著作権利用料などの「経済的対価の還元」を通じて障がいのある人々の自然な社会参加を実現する仕組みづくりに取り組んでいます。

ー私たち障がい者アート協会は「著作権等管理事業者」ですー

障がい者アート協会は本年著作権等管理事業法に基づく、国内の障がい者支援団体としては唯一の「著作権等管理事業者」として文化庁に登録されました。今後も著作権利用許諾の適正な運用と著作権利用料の適切な分配、そして透明性のある組織運営や情報公開に取り組んでまいります。

アート活用のメリット

① 創造性とイノベーションの刺激

障がい者アートは、新たなアイデアやアプローチをもたらす源です。その独自の表現力は、企業のプロジェクトや商品開発に新たな刺激をもたらします。

② ブランド価値の向上

障がい者アートへの支援は、企業の社会的な取り組みとして評価されます。その結果、企業のブランドイメージが向上し、顧客からの信頼を得ることができます。

③ 多様性と包括性の促進

障がい者アートの活用は、多様性を尊重し、社会的な包括性を実現する一環として位置付けられます。企業文化の多様性を高め、社内外の関係者に良い影響を与えます。

④ コミュニティとの連携強化

障がい者アートを支援することで、地域コミュニティとのつながりを強化できます。地域社会への貢献と協力関係の構築が可能です。

御社の事業活動を通じて自然な社会貢献を実現できます

事業活動の中でアートを活用するシーンやアイテムは多種多様に存在します。アートの多様な活用によって、より多くの作品に社会に知ってもらうチャンスを与えることになります。

主な活用事例

私たちは、企業のビジョンや目標に合わせて、障がい者アートの活用方法を共に考え、実現いたします。一緒に、より豊かな社会を築く取り組みにご参加ください。



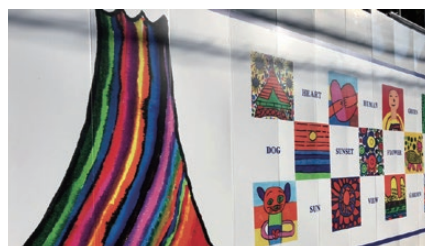
ワインラベル



クリスマスカード



ボードゲーム



まちかど障がい者アートギャラリー



障がい者アート配信サービス「ParaCanvas (パラキャンバス)」



ショッピングモール 仮囲い

アート協会ではSDGsのゴールの内 ① ⑧ ⑩の目標達成に取り組んでいます



障がい者アート協会は SDGs の理念である「誰一人取り残さない」共生社会の実現を目指して活動しています。障がいのあるアーティストの生み出すアートを活用することは、作品採用アーティストのみならず、その他多くの創作活動が続ける障がい者の支援（創作活動応援費）に繋がります。

この創作活動応援費は、公的資金に頼らずに、多くの企業が多くの障がい者当事者を応援するという当協会独自の支援の枠組みです。



1.3 それぞれの国で、人びとの生活を守るためのきちんとした仕組みづくりや対策をおこない、2030年までに、貧しい人や特に弱い立場にいる人たちが十分に守られるようにする。



8.5 2030年までに、若者や障害者を含む全ての男性及び女性の、完全かつ生産的な雇用及び働きがいのある人間らしい仕事、並びに同一労働同一賃金を達成する。
8.6 2020年までに、就労、就学及び職業訓練のいずれも行っていない若者の割合を大幅に減らす。



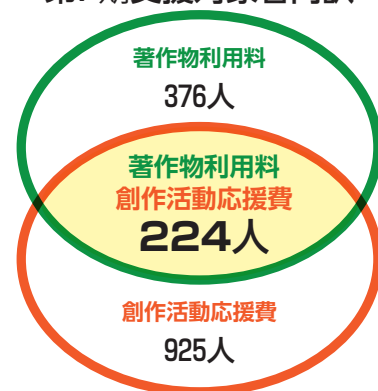
10.2 2030年までに、年齢、性別、障害、人種、民族、出自、宗教、あるいは経済的地位その他の状況に関わりなく、全ての人の能力強化及び社会的、経済的及び政治的な包含を促進する。

誰一人取り残さない みんなに還元

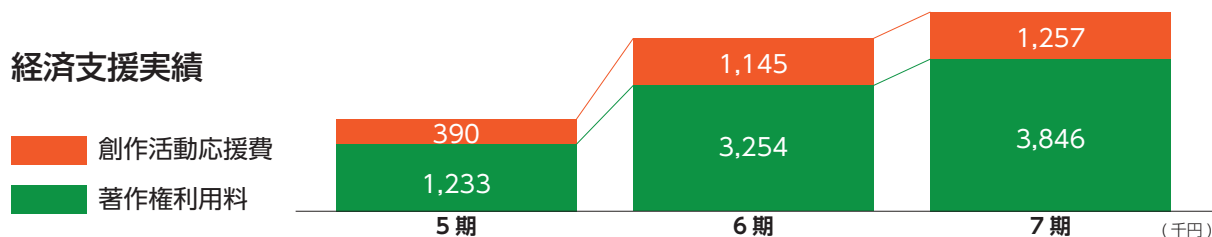
創作活動が続ける障がい者アーティストを「誰一人取り残さない」支援の仕組みである「創作活動応援費」は障がい者アート協会の理念を体現する仕組みであり、協会発足当時から途切れることなく続けられています。この理念は、SDGs(持続可能な開発)の理念に共通する部分があります



第7期支援対象者内訳



経済支援実績



アート作品や当協会へのお問い合わせはこちら



一般社団法人
障がい者アート協会

オンラインギャラリーアートの輪
<http://artnowa.org/>



一般社団法人アート協会サイト

<https://www.borderlessart.or.jp/>

〒358-0026 埼玉県入間市小谷田656-2 グリーンコート101



アート協会メールアドレス
info@borderlessart.or.jp

